

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	中国語
科目基礎情報						
科目番号	0040		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	李志華・文南 著『友子の北京ライフ』 白帝社					
担当教員	范 叔如,劉 鳴,羅 穎,張 愛花					
到達目標						
1. 4年生で`学習した日常会話を復習しながら`、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ます。 2. 中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解を深めます。 3. 練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めます。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	4年生で`学習した日常会話を復習しながら`、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることが適切にできる		4年生で`学習した日常会話を復習しながら`、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることができる		4年生で`学習した日常会話を復習しながら`、さらに応用表現を習得することで`、会話の幅を広げ`ることができない	
評価項目2	中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解を深めることができる		中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解ができる		中国のテレビ`番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ`、中国の社会や文化についての理解できない	
評価項目3	練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることが適切にできる		練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができる		練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA) JABEE 環境都市 (B)						
教育方法等						
概要	この授業で`は、基礎となる中国語の文法・会話表現を復習しながら、より高度な表現を習得することで`、ある程度の実力をつけることを目標にします。					
授業の進め方・方法	発音方法、文型模倣練習法、模倣記憶返複法などを必要に合わせて応用する。					
注意点	試験前にまとめて勉強するのではなく、普段の授業を大切に、しっかり知識の基盤を築くことを期待する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第9課		月、日、曜日の言い方、名詞述語文	
		2週	第9課		経験を表す"過"	
		3週	第9課		動作の状態の程度を表す"得"と"是～的"	
		4週	第9課		「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第10課		時を表す語②と"快～了"	
		6週	復習			
		7週	中間試験			
		8週	第10課		動詞の重ね型と持続を表す	
	2ndQ	9週	第10課		「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第11課		助動詞"会"、"能"、"可以"	
		11週	第11課		2つ目的語をもつ動詞	
		12週	第11課		結果補語	
		13週	第11課		「聞く、書く、話す」と本文	
		14週	復習			
		15週	期末試験			
		16週	答案返却・解答説明			
後期	3rdQ	1週	第12課		可能補語"得"	
		2週	第12課		方向補語／助動詞"得"	
		3週	第12課		動詞(句)を目的語にとる動詞	
		4週	第12課		「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第13課		量詞／比較の表現"比"	
		6週	復習			
		7週	中間試験			
		8週	第13課		離合動詞／副詞"又～又～"	
	4thQ	9週	第13課		「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第14課		"了"1+"了"2構文	
		11週	第14課		使役文	
		12週	第14課		受身文型	
		13週	第14課		「聞く、書く、話す」と本文 時刻などの表現	
		14週	復習			
		15週	学年末試験			
		16週	答案返却・解答説明			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2		
評価割合							
	試験	課題	授業参加度	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0